広報
かわち
発行所　河内村公民館
発行人　篠田彦次
編集印刷所　龍崎活版所

新しい農業資本の必要とその充足
（農協合併の要）

村長　青野隆一郎

昭和三十五年度の農林省予算れておったのであります、われわれは農村において、行政の、農業費目があります。その中で農業基盤整備費という費目を新しく設けてあるのでありますが、昨年の予算ではそれが食糧増産対策費という名目によって予算に計上さより重大なものと考えなくてはならんのであります。

少くとも、度々申し上げておりますとおり、米の需給が完成しているような現在、増産するというよりも、農業によって生活する農民の経済をいかに発展させていくかという事が今日の命題であるからです、農業基盤整備費という費目によってそれがあらわれてきたのであります。われわれは此の質的変化に対していかなる方策をもって進まなければならないかという事でありますが、その後に池田内閣が成立致しまして池田首相は、

農業人口の三分の一減ですが、所得倍増論と同時にそれを提唱しております。しかしです。少くとも現在のような独占資本と、零細な農業資本との対立関係、生産関係におきましては、このまま放置しましても、食いない農家、自立できない農家は、自然と転業的転換を、外的要請によって、余儀なくされ、同時に、階層の分化が、今迄よりも迅速に行われてゆくのであります。最近の新聞を見ましても、施策をほどとす事なくして零細農家が少くなってるという事が報道されているのであります。

これはいうなれば、現在日本の農業経営の条件が、文化と文明の都市における発展にアンバランスした条件で経営しているが、従って農業経営者の自然の間に支出が増えておりながら収入が増えないという事は言換えれば、より有利なる仕事に転換を余儀なくされるという結果になると思うのであります。

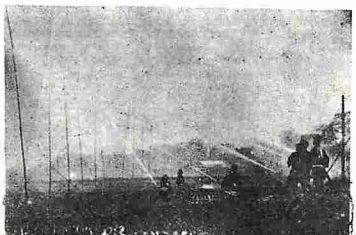
これらの点に於きまして、現実の問題と致しまして村は何を考え、いかなる方向に進んでゆかなければならないかという事でありますが、少くともです、都市の大事業、集中的な大資本と対抗していくような形にもって行くという事になれば、必然的に農協の、より可及的迅速に合併するという事、或は農協経営の充実という事が一つの条件となりまして、国家資金を系統的に農家へ導入するという一つの手段方法を樹てる必要があると思うのであります。又これなくして新しい農業経営に踏み入る事はできないと思います。最近農業の質的変化と同時に、今後の対策をいかにすべきかという点が問題になっておりますが、その土地を基盤は一言にしてはいわゆる整い、即ち、土地改良をきものではありますが、少くとも過去における農業の発展に重ねられて来ました処の今日の大転換期にたって、われわれは将来への方向

これから寒くなるにつれて火一人一人が火災予防に注意をを使用する場合が多くなり、ならば、たとえ火災期でさらに湿度が低く風が強くなあっても出火を減少させて、つて、つねに燃いやすい状態の損害を軽減することは至難におかれる。このことは火災なことではないはずです。がおこりやすいばかりでなく火災でうける損害は、たとえ質面の焼失という直接損害だ物けではありません、精神的、間接的損害はこの直接損害とは比較にならないほど大きなものがあります。

本県内におきた昨年の火災件数は三一三件、損害額、三億二千六百万円、一日平均すると約九十万円が灰になっています。そして失火の原因を調べて見ると件数の六〇%は取り扱いの不注意がもとになっています。これを時刻別にみると午前十一時前後が七十件でもっとも多く、次いで午后二時十五分迄、午后三時、応募の手続

秋季消防点検行わる
毎日90万円が灰に　火の始末に十分注意

4支団20分団に編成されている消防団員1,160名の秋季点検は去る11月25日蔀落田小学校において挙行された。



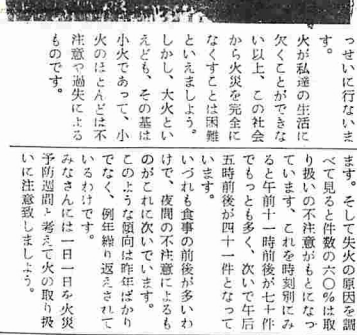
火災によってうける損害は、年間を通して非常に大きなもので、直接、間接に産業の発展や生活の安定をはばむことになっています。

この災害を少なくしていく方法としては、建築物の不燃化や消防施設を強化することが必要なことです。

しかし出火の原因をみると、ほとんどが火気取り扱いの不注意がもとになっていますので、一人一人が、火災予防に注意することがもっとも大切な事といえます。

火が私達の生活に欠くことができない以上、この社会から火災を完全になくすことは困難といえましょう。

しかし、大火といえども、その基は小火であって、小火のほとんどは不注意や過失によるものです。



衆議院議員総選挙
最高裁判所裁判官国民審査

投票状況（河内村）

投票総数	六、四二〇票
有効票数	六、三七八票

立候補者個人別得票数

所属党派	氏名	投票数
（自民）	橋本登美三郎	五九一
（民社）	高橋信次郎	二三一
（無）	木内竜夫	二、四二一
（社会）	山本正	一〇
（自民）	加藤高蔵	二、三一八
（自民）（社会共産）	大久保留次郎	一、八七二
（民社）	久保三郎	二七三
（無）	針谷武夫	三六
（自民）	中山栄一	六、七一一
（無）	葉梨信行	九七
計		六、七三八

裁判官国民審査

裁判官氏名	投票数	不可とする投票数
小谷勝重	四、八三六	一九一
島保	四、八六五	一四一
村又介	四、八五二	一七四
高木常七	四、八六八	一五九
藤田八郎	四、八八二	四五
横田喜三郎	四、八九三	四四
石坂修一	四、八七九	一三四
斉藤悠輔	四、九〇二	一二五
計	三四、八七六	四八〇

募集
転業訓練生

昭和三十六年度

種目	募集人員	昼夜別	男女別
建築大工	三十名	昼間	男
事務員	三十名	昼間	男女

義務教育修了者又はこれと同等以上の学力を有すると認められる者

二、応募受付　昭和三十六年一月一日から三十五日迄

三、応募の手続　入所希望者は、所定の入所願書に履歴書を添えて当所又は公共転業安定所に申込み下さい。

四、訓練種目別募集人員

種目	募集人員	昼夜別	男女別
建築大工	三十名	昼間	男
事務員	三十名	昼間	男女
第二種電気工事士30名		昼間	男女
テレビ修理工30名		昼間	男女
園芸部員	三十名	開昼	男
監写印刷工	二十名	夜間	男女
商洋計算	若干名	夜間	男女

詳しい事は役場に問合せ下さい。

住民定期結核
健康診断実施について

結核予防法第四条の規定により、貴方の御家族の健康診断を受けなければならないことになっております。

今年も、12月19日より無料診断を実施致します。

見かけの健康だけではあてになりません。予防に優る治療なしと云われますが、検診によって結核にかゝらないよう予防もできます。可愛いお子さんや、お孫さんに感染しないよう、此の機会を逃さず一家一人残らず診断を受けられるよう。

◎検診は野良着のまゝで、できます。

尚レントゲンを撮る場合も野良着を着用したまゝできますから、必ず検診をお受けになるように。

河内村産業振興会役員決る

さきに設立した河内村産業振興会の役員がこのほど決りました。役員名次の通り

会長	大原政安
副会長	小更義雄
副会長	茂手木衛
副会長	平沢勇秀
第一支部長	松岡格樹
副支部長	小更義雄
第二支部長	田中達夫
副支部長	松本清
第三支部長	鈴木武男
副支部長	沼見晃
第四支部長	大竹倉雄
副支部長	塩沼茂
第五支部長	石橋忠男
副支部長	根本孝一
第六支部長	橋本文男
副支部長	大野道太郎
第七支部長	水原浩三
副支部長	松本清
主穀生産部長	大竹正男
副	根本孝一
畜産部長	石橋忠男
副	真仲与吉
園芸部長	岡野文一
副	山本定夫
経営部長	駒塚純一
副	田中勇
生活改善部長	宮本あき
副	内藤瑞子
副	牧山みさを
幹事	真仲彰
	古手進
	岡野金吾
	大野四郎
	宮崎藤一
	藤崎芳男
	仲田栄一

今年の稲作の反省（其二）

河内村農業改良普及所長 関口好造

「米質食味が良く市場でよろこばれる品種」

食糧が豊富であれば良質で食味のうまいものを求めるのが人情の常である。米に対する消費者の要求も特に食味が問題にされ食味の劣るものは一向に振り向かれない状況にあることは米産県として又米単作地帯として産米改良に重大関心を持たざるを得ません米産各県に於て食味本位に近い産米改良に重点が置かれているのも此処にあるものと思うそうした点で三十五年度稲作を反省して来る三十六年度の作付設計に特に品種の選定が重要視される。前回奨励品種について記しましたが中生種の『ギンマサリ』が食味について不評であるためにこれに換はる品種が希望され三十五年度『コシヒカリ』が選定されたのでこれを全般的に普及を奨めたい。

尚奨励品種外で、有望の品種と目されるものに『ヨモヒカリ』があるこの品種はシロガネと同時期の出穂成熟期で稈長穂長とも稍々長く中間型の品種で中粒米質食味比は良好である。シロガネにし稍々穂首イモチ病に弱い様である低温地にも適しギンマサリ、シロガネ、サヽシグレ等に換って今後作付される品種と思ふ各自今から良品種を選定し種子の確保を期して戴きたい

『ビニール畑苗代用床土の準備』その時になってのにはか作りの床土では立派な成績を求めることは困難である苗代を三月中に作り早播きする傾向が多くなって来ているが苗代作り播種期は田植の時期を充分考慮に入れて実施すべきで三月中下旬に播種したものでも順調の生育で四十日前后で田植することになる『ビニール畑苗代』は早く苗代を作る場合寒い田圃に入らずに作業が出来水管理も播種時に充分の水があれば宅地内の設置も出来る等の関係最近年々増加の傾向にある、そこでこれの設置については前もつて計画し特に床土の良否が苗の成績に影響するから出来る丈け良質の床土を造ることが大切です。それには堆厩肥脱浮等を今より人糞尿、鶏糞等の窒素質肥料を補給して堆積し数回切返しを行つて完熟堆肥としてこれを畑土等と混合して『床土』とする一坪（三・三^{2}m）の床土に一〇貫（三七・五kg）以上の完熟堆肥が必要である

これは床土を膨軟にして酸素を供給し保水吸肥力を増大し根の伸長をよくして移植后の活着の良い健苗を得ることが出来る。是非床土用の完熟堆肥の準備確保に努められたい反当（一〇g）当り本田に対し苗代面積は約四～五坪（一五^{2}m）位でよい。

「施肥設計と肥料の準備」

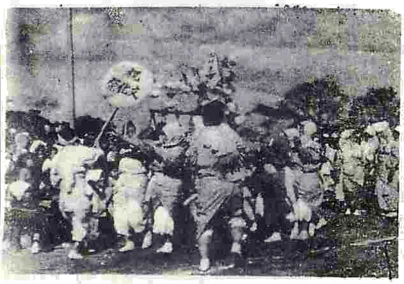
前年度も相当早くから春肥の準備がされ計画されていた三十五年度の稲作を反省し施肥設計を立てる時期が来ました圃場別地域別土壌系別品種別に施肥設計を立て種別肥料必要量を定めます。この際注意すべき点は今后の米作りに於いて特に生産費の低減を計る必要が大切で、米作りに於て最も出費の大きい金肥代の節減が考えられます。それには年々増加の傾向にある化成肥料を単肥配合にして肥料費の節減を計ることも大切です化成肥料と単肥配合を比較する時に四〇kg一叺で一五〇～二〇〇円内外の金額の差が出て来ますこれが農家の皆様の手数料となるわけですからこの際硫酸等の多く含まない無硫酸根肥料を使って共同作業等で単肥配合するのもよいことです。是非実行することを奨めます。反当（八〇kg）の施肥量として四〇〇円～一、五町（一、五Ha）で六〇〇〇円程度の米作りからの収益が増加することになります。又一方冬期間を利用して堆厩の質のよいものを増産するよう努めたいものです。河内村でも酪農、養豚の厩肥で一、五町（一、五Ha）以上の耕作水田に対し反当（一〇a）三〇〇円の金肥代で反当九俵平均の収量を納めている方もあります畜産の導入による金肥の節減と地力の増大に一層の努力が要請される。

盛大を極めた 文化祭典

村民全部が一ヶ所に集り、お互に助け合い、又せり合っての楽しくも、有意義な恒例の秋の祭典は、菊花も薫る十一月12・13・14日の三日間にわたり行われた。初日は先づ開会式にはじまり別表、功労者の表彰式、研究発表会、午名は、東京農大農経部長我妻東策先生の記念講演があった。尚当日は、各自腕によりをかけての各種展示もあり、特に農産物品評会等においては、出品早々売約済みとなり、出品者の笑顔はかくしきれないようであった。十三日は雨にたゝられたが、十四日は、秋晴れの絶好の運動会日和にめぐまれ、待ちに待った一日だけに、予想以上の参加者を得、はじまって以来の盛大を極めた。特に、校庭一ぱいに、くりひろげられた、婦人会、みのり会合同の、仮装、踊り大会は、爆笑の中にも、今年の豊作の喜びと家庭から解放された御婦人方ののびのびした姿は、河内村民としての新しい姿でもありましょう。最終日も多数の参加者を得柔剣道、碁将棋、野球大会が行われ、日の暮れるのも忘れる程の熱狂裏に、三日間に互る河内文化祭も無事終了することができた。

◁仮装行列▷

◇おどり◇



◇仮装行列◇

なひき ◁

優勝した源清田保村新和チーム

文化祭における 表彰者並に組合

役職及所属	地区別	氏名
PTA	生板	大野忠
〃	源清田	田中善太郎
〃	生板	佐藤政雄
〃	長竿	小倉喜美子
〃	金江津	根本寿
〃	金江津	桜井昇
元公民館長	生板	長峰修也
公民館運営委員	生板	大野敬助
消防団長	長竿	小倉賢爾
副団長	河清田	岡野斉芳
副団長	生板	野沢彰
副団長	金江津	山口寧男
元消防団長	生板	大野多意
元消防団長	源清田	秋山茂
元婦人会長	源清田	山本とよ
婦人会	生板	有本きみ
みのり会長	金江津	竹尾たか
元青年会長	金江津	田仲重雄
元青年会長	長竿	時田理三郎
民生委員長	源清田	坂本孝恕
民生委員	生板	大野修
区長	源清田	上山好郎
〃	長竿	松田重雄
〃	生板	石井解次郎
〃	金江津	広沢憲
納税組合	生板	竜ヶ崎町歩納税組合
〃	源清田	古河林下納税組合
〃	長竿	下組納税組合
〃	金江津	和銅埜上納税組合
〃	金江津	〃中納税組合
〃	金江津	〃下納税組合
産業振興会	源清田	高橋壬介
〃	生板	平沢秀
〃	金江津	大原政安
〃	長竿	小更義雄

!!やめましょう!! 刃物の持ち歩き

最近青少年の間に、短刀、ジヤツクナイフ、とびだしナイフ等の刃物を持ち歩いて、過失による傷害や、喧嘩等に悪用して、傷害殺人等の事件を惹起すという血なまぐさい三面記事が毎日のように新聞紙上を賑わしていることは、まことに慨かわしい風潮であります。これが原因は多々あろうと思うが、漫画本、テレビラジオ等の悪影響による青少年の悪のヒロイズム感に起因誘発されることも、見逃すことのできない一因でもあろうと思われます。これ等の不祥事の絶滅を期する為には間接的には、テレビ、ラジオの視聴覚教育の健全化を計ると共に、直接的には、不用の刃物等を持ち歩かせないことにあります。村内の各学校では鉛筆削器等を備えて、児童生徒の刃物持参を厳禁しているもの、家庭におかれては登校前に鉛筆等は必らず削っておいて、学校には絶対に刃物等は持参させないよう、御指導を願います。県警察本部としても、十二月一日より一斉に刃物をもたせない運動を展開して、一般少年、小、中、高校生を対象に、県民グルミの防犯運動が推進されることになっていますので、これを機会に、やめよう刃物の持ち歩きの趣旨徹底に、村民各位の格段の御協力をお願い致します。

（教育長）

農村機械化に思う

現在当村にも、多数の耕耘機が購入され、農業機械化に一歩前進した事は、非常によろこばしい事であります。しかし、此処で、よくお考えになって機械購入を致しませんと種々な面に困難な問題がおこるおそれがあるように考えられます。現在機械を購入致しておる農家を調査した結果によりますと、ほとんどの農家が耕耘機を購入しており、農業の機械化という割合に、生産性の面においては過去と何ら変る処がない、却って消却費にくわれてしまい、たゞ作業面だけが、らくになるだけで採算がとれないという事であります。

機械のもっている力を、どのようにしたら、十二分に発揮できるかでありますが、それは申し上げるまでもなく、土地改良の問題であります。土地改良なくして、機械を購入してみた処で、機械力を充分発揮する事は不可能でありま す前に、自分の経営している耕地面積、土地条件、経営状態をよく考えて、機械購入を致しませんと、経営に種々な支障をきたす事になるでしょう。例えば、隣の家で機械を買ったから、俺の家でもとか或は、機械屋の宣伝にまきこまれて、つい買ってしまったとか、いう話を私はよく耳にする事がありますが、こういう事でありましては、これからの新しい農業（土地の最大限の利用、商品生産、有畜立体農業）を経営していく上に非常な困難におちいる事になるだろう。なんといっても、これからは、先づ、この機械力と、土地改良が先決問題でありましよう。この土地改良には種々むづかしい問題も多数ありますが、これからの農業は土地改良と機械化によって、農業労働の軽減、土地利用度の拡大増進、生産性の向上、経営の改善合理化を期し、併せて農業技術と畜産化、生活の健全化であります。いわゆる当村は水田単作地帯でありますので、土地改良と、機械化によって、水田裏作が可能となり、単作地帯の問題が解決されるのではないでしようか、そうしてこの中から、はじめて、新しい農業経営が生れると同時に曲り角にある農業の解決の途ともなるのではないか。

（経済課 高橋）